

3

図1～図3は、日本の梅雨、夏、冬のいずれかの時期の特徴的な天気図である。これについて、あとの問いに答えなさい。

図1

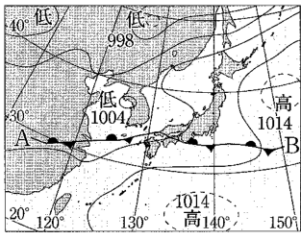


図2

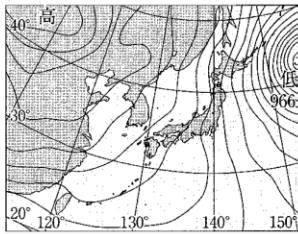
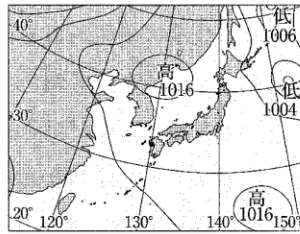


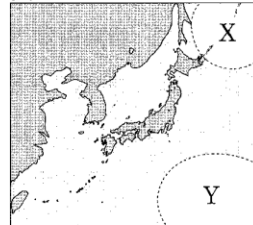
図3



- (1) 図4の気団X、Yは、図1に見られる前線A－Bに関する2つの気団を表したものであり、前線A－Bは、気団X、Yがぶつかり合うことで発生する。気団X、Yの性質として最も適当なものを次からそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 冷たく乾燥している。      イ 冷たく湿っている。  
ウ あたたく乾燥している。      エ あたたく湿っている。

図4



- (2) 図2について、次の各問いに答えなさい。

- ① 図2のような特徴的な気圧配置になる時期に発達している気団は何気団か。名称を答えなさい。  
② 図2のような気圧配置になる時期には、日本付近にふく季節風が日本に特有の気象をもたらす。この季節風の影響で、a日本海側とb太平洋側では、それぞれどのような天気になることが多いか。最も適当なものを次から1つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 乾燥した晴れの日が続く。      イ 蒸し暑い晴れの日が続く。  
ウ 多くの雨や雪が降る。      エ 天気が周期的に変化する。

- (3) 図3の時期にふく季節風について説明したものとして最も適当なものはどれか。次から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 陸は海よりもあたたまりやすいため、大陸から海洋へ季節風がふく。  
イ 陸は海よりもあたたまりやすいため、海洋から大陸へ季節風がふく。  
ウ 海は陸よりもあたたまりやすいため、大陸から海洋へ季節風がふく。  
エ 海は陸よりもあたたまりやすいため、海洋から大陸へ季節風がふく。

- (4) 次のうち、台風について説明したものとして適当なものはどれか。すべて選び、記号で答えなさい。

ア 台風は、低緯度の熱帯地方の海上で発生した熱帯低気圧が発達したものである。  
イ 台風の地表付近の風は、上空から見ると台風の中心に向かって反時計回りにふきこんでいる。  
ウ 台風は、日本列島に上陸すると、勢力が強くなることが多い。  
エ 台風は、偏西風の影響を受けると、西寄りに進路を変えることが多い。

- (1) 図1は停滞前線A－Bが見られることから、梅雨の天気図である。停滞前線の北側にはオホーツク海気団(X)、南側には小笠原気団(Y)がある。  
(2) 図2は冬の天気図である。シベリア気団からふく北西の季節風は、日本海上で多量の水蒸気を含み、日本海側に多くの雨や雪を降らせる。水蒸気の少なくなった空気が山脈をこえ、太平洋側にふき下りるので、太平洋側では乾燥した晴れの日が続く。  
(3) 図3は夏の天気図である。陸は海よりあたたまりやすいため、夏の大陸では上昇気流が発生し、気圧が低くなる。気圧が高い海洋から気圧が低い大陸へ南東の季節風がふく。  
(4) エ…北上してきた台風は、偏西風に流されて、東寄りに進路を変えることが多い。

(1)	X	イ	Y	エ	11
		完答			
(2)	①	シベリア			気団
(2)	②	a	ウ	b	ア
		完答			13
(3)	イ				14
(4)	ア, イ 順不同完答				